

麻生区
農と環境を活かしたまちづくり

これまでの成果と 今後の課題

平成30年7月23日（月）

第1回
明治大学・川崎市
黒川地域連携協議会

I

明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会とは

協議会の目的とこれまでの主な流れ

黒川地域連携協議会は、明治大学と川崎市が、「農業研究・実験機能」、「山林の保全と活用機能」及び「農業体験・交流機能」における連携を通じた黒川における地域づくりを推進することを目的に平成21年に設置しました。

区民や大学、学校、農業従事者、行政が連携し、地域資源や地域ニーズの把握を進め、恵まれた農業資源や環境資源を活かした黒川地区のまちづくりを推進してきました。

年度	主な取り組み
平成19年度	明治大学と川崎市との連携・協力に関する基本協定書（H19.12.26） →相互の持つ知的資源や地域資源を活用して、研究・開発による産業・科学技術の振興や市民の生涯学習の推進等を図ることを目的とする。
平成20年度	明治大学と川崎市との黒川地域連携協議会設置に関する覚書（H21.1.19） →黒川地域における連携協力を推進し、相互の交流及び発展を図るため、協議会を設置する。
平成21年度	黒川地域連携協議会の立ち上げ
平成25年度	3つの専門部会の立ち上げ （農産物等研究専門部会、地域活性化検討専門部会、里地里山保全利活用専門部会）
平成26年度	「黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり」基本計画の作成 試行的取り組みの実施
平成27年度	「黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり」実施計画の作成 試行的取り組みの実施
平成28年度～	実施計画に基づく取り組みの展開

黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 基本計画の内容

1. 目的

川崎市麻生区黒川地域は、豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す地域です。しかしながら、良好な環境を持続的に維持保全していくためには、農・緑・地域等に関して様々な課題があります。

そのため、本取り組みは、**この地域が抱える課題を解決しながら**活力ある地域としていくため、農業者・地域住民・大学・行政等が連携し、農と環境を活かしたまちづくりを進めることを目的としています。

■ 黒川地区が抱える課題

農が抱える課題

- 都市農地の保全
- 農家・農業後継者の減少
- 地元農産物の魅力づくりや付加価値の向上

地域が抱える課題

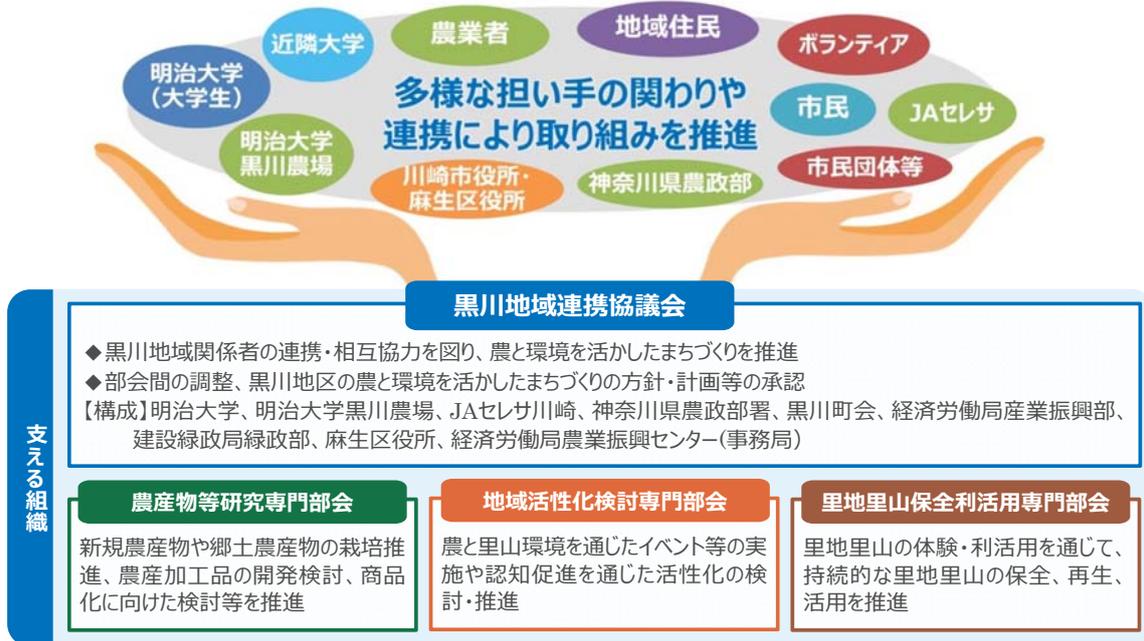
- 地域の活性化と増加する来訪者等への対応、マナー向上
- 農業者、地域住民、市民ボランティア、大学、周辺企業、市民等との積極的な連携

緑が抱える課題

- 里地里山環境の持続的な保全・活用と担い手の確保
- 生物多様性の保全、環境学習環境の確保
- 農業施策と緑地保全施策の連携

黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 基本計画の内容

2. 推進体制



黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 基本計画の内容

3. 目標

大目標：地域の農業資源・環境資源・人的資源を活用した地域の活性化や地域交流の推進
～持続的な里地里山の保全に向けて～

3つの柱：農産物等の地産地消（農産物等研究専門部会）
農と里山体感・地域交流（地域活性化検討専門部会）
里山の保全と活用（里地里山保全利活用専門部会）



黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 実施計画の内容

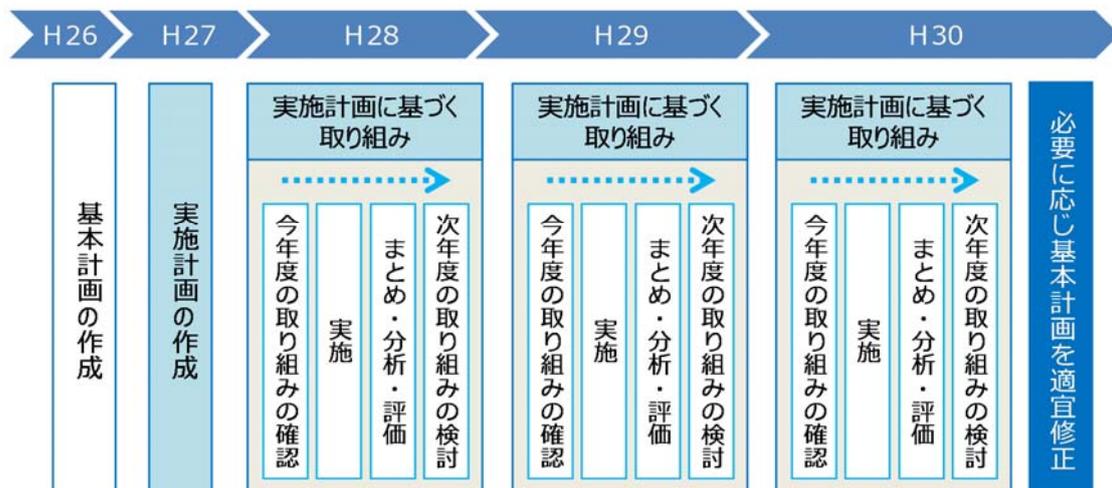
1. 実施方針と取り組み事項

実施方針	実施計画	
	実施方針の具体化の考え方	取り組み(例)
地元農産物の販売促進と加工品の開発 農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。 → 農産物等研究専門部会	新規農産物や郷土農産物栽培の推進 農産物のブランド化等を進めるため、効率的・効果的な農産物の栽培や特色ある農産物の栽培に向けた取り組みを実施する。	・大学と農家の意見交換
	農産加工品の開発検討 地域農産物の付加価値を高めるため、地域の女性農業者等と連携し、特色ある加工品開発や販売等の取り組みを実施する。	・女性農業者との農産加工品に関する検討
農や地域環境を体感するイベントの実施・PR 農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。 → 地域活性化検討専門部会	農産物等のイベント活用やPRの推進 黒川産の農産物等の認知促進のため、積極的なPRの取り組みを実施する。	・黒川野菜・果物等のPR
	黒川地域の認知促進 黒川地域の里地里山環境をPRするため、快適な散策環境の充実にに向けた取り組みを実施する。	・サインの検討 ・散策マップの検討・試行 など
里山の保全や活用の推進 多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。 → 里地里山保全利活用専門部会	農と地域環境の体感 多くの人に黒川地域の魅力を伝えるため、里地里山の農産物等の恵みを活かし、多様な体験を提供する取り組みを実施する。	・グリーンツーリズム など
	新たな魅力の発見・創造 黒川地域に関心に向け、新たな顧客を獲得するため、黒川地域の新しい魅力を発見・創造する取り組みを実施する。	・菜の花プロジェクト など
	里山の体験・利活用 里山環境とふれあう機会をつくるため、里山の竹材や木材の利活用や里山環境を活かした多様な体験を提供する取り組みを実施する。	・竹あんどづくり ・環境整備の検討 など
	里山の保全管理 持続的な里山環境の保全と担い手の確保につながるため、地域の団体との連携による保全管理等の取り組みを実施する。	・里山保全活動体験 など

黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 実施計画の内容

2. PDCAにもとづく計画や取り組みの確認、評価、検討

平成27年度に作成した「実施計画」に基づき実施していきますが、具体的な取り組みは、毎年の成果を踏まえ、毎年設定します。また、おおむね3年程度を目途に、必要に応じて基本計画の内容についても適宜修正します。



Ⅱ

これまでの取り組みの成果

成果 その1

大学・地元・行政の連携体制ができ、
多様な取り組みを進めることができた。

アスパラガスの採りつきり栽培（H28～）

農産物等研究専門部会



大学



地元

連携により、地元特産品開発の試行を実現！

栽培方法開発者である
元木先生による講習会や巡回等を実施

17名の地元農家が
アスパラガスの採りつきり栽培の取り組みに参加

ダイコンの収穫体験（H29）

地域活性化検討専門部会



地元



大学

地域連携で黒川地域の魅力のPRを実現！

地元農家さんの畑にてダイコンの収穫

明治大学の調理室に移動して、
小清水先生によるピクルスづくりやふりかけづくり講習

竹炭シンポジウムin黒川（H28）

地域活性化検討専門部会



地元



大学

多様な主体が連携して、
里山資源活用の可能性を検討！

地元農家の竹林から、当日シンポジウムで使う
竹を調達。

NPOと連携し、
明治大学黒川農場
にてシンポジウムを
開催。



成果 その2

約3年間で様々なイベントを実施し、
地域に周知されてきた。

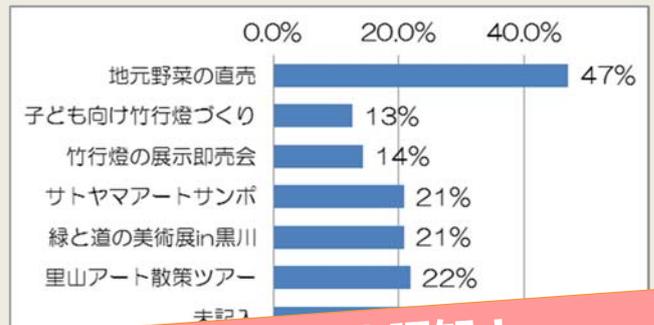
約3年間で様々なイベントを実施し、
地域に周知されてきた。

収穫祭での地元農産物の販売（H27～）

農産物等研究専門部会



黒川地域連携協議会による、収穫祭と連携した
取り組みのなかで、知っていた取り組みはありますか。



収穫祭に来た人の半数は直売を認知！

毎年ほぼ完売。お客さんの声も好評。

収穫祭におけるアンケート（H29）

約3年間で様々なイベントを実施し、
地域に周知されてきた。

里山アートプロジェクト（H27～）

地域活性化検討専門部会



里山アートへの関心が高まっている！



サトヤマアートサンボ2017の関心度
（収穫祭参加者アンケートより）

稲刈りが終わった田んぼ

グリーンツーリズム (H26～)

地域活性化検討専門部会

グリーンツーリズムが黒川再来訪のきっかけに！



トマト&ブルーベリー収穫体験モニター (H27～)



さつまいも収穫体験モニター (H27)

- トマト&ブルーベリー収穫体験モニター後日アンケート (過去のイベント集計)
 - ・ イベントを通じて、農や環境への関心が高まった (32人中28人が回答)
 - ・ 地産の野菜を買いたいと思うようになった (32人中15人が回答)
 - ・ 地産の野菜を買うようになった (32人中13人が回答)
 - ・ イベント終了後、セサモスに行く頻度は増えた (32人中11人が回答)

竹あんどんづくり (H27～)

里地里山保全利活用専門部会



竹あんどんづくりワークショップ



取り組みが発展して、地域の魅力づくりに貢献！

正月の汁守神社で展示
地域情報ブログ「はるひ野ドットコム」で紹介される。

成果 その3

協議会の取り組みが発端となって、
コラボレーションが発生！

成果 その3

協議会の取り組みが発端となって、
コラボレーションが発生！

黒川の子どもたちとのアートワークショップ（H29）

里山アート×子どものコラボレーション！



風車の作品

黒川子ども会による風車づくりワークショップ

協議会の取り組みが発端となって、 コラボレーションが発生！

マイコンシティに本社を持つシグマ社によるイベント開催（H29）



里山アート×レンズ会社とのコラボレーション！

セレスモスのテントを借りて、アートを楽しみながらシグマ社のレンズを試せるイベント開催。

里山アートプロジェクトの作品を解説しながら、作品撮影するフォトツアー開催。

協議会の取り組みが発端となって、 コラボレーションが発生！

竹行燈の会による体験プログラム提供（H28～）



竹行燈の会×小田急電鉄のコラボレーション！

小田急電鉄「里山の自然観察会」での竹林でノギリを使った竹切りを体験

竹行燈の会が指導する竹あんどんづくりも実施

そのほか
にも…

**協議会以外にも、多様な主体が
黒川の魅力を活かした取り組みを展開！**

そのほか
にも…

**協議会以外にも、多様な主体が
黒川の魅力を活かした取り組みを展開！**

緑と道の美術展in黒川（H28～）

地元発案による魅力づくりが始まっている！



黒川緑地管理組合、アトリエIZUMIによるアートイベント
アートツアーにも大勢の参加者がある。



協議会以外にも、多様な主体が
黒川の魅力を活かした取り組みを展開！

川崎市・セレサ川崎農業協同組合共催
収穫体験イベント（H21～）



黒川農場見学と親子体験プログラム
アグリエコファーム体験in黒川

10/21 アグリ・エコファーム体験
in明大黒川農場 **時間 9時半～15時**

明治大学黒川農場で先端農業技術の施設見学と、野菜の収穫や調理体験をします。

場所 明治大学黒川農場(黒川2060-1)

対象 区内在住・在学の小学3～6年生と保護者

定員 30組60人(子ども1人に対して保護者1人)

申込 9月29日(必着)までに区HPか往復ハガキ(子どもと保護者の氏名(ふりがな)、住所、電話番号、学校名、学年を記入)で〒215-8570麻生区役所地域ケア推進担当「明大黒川農場」☎965-5303 ㊟965-5169。(抽選)



先端農業技術の施設見学と、
野菜の収穫体験・調理体験



セレサモスや明大も、協議会だけでなく、
川崎市と連携して魅力を発信！



協議会以外にも、多様な主体が
黒川の魅力を活かした取り組みを展開！

川崎市黒川青少年野外活動センターの取り組み



センターでも里山環境を活かしたイベント開催！

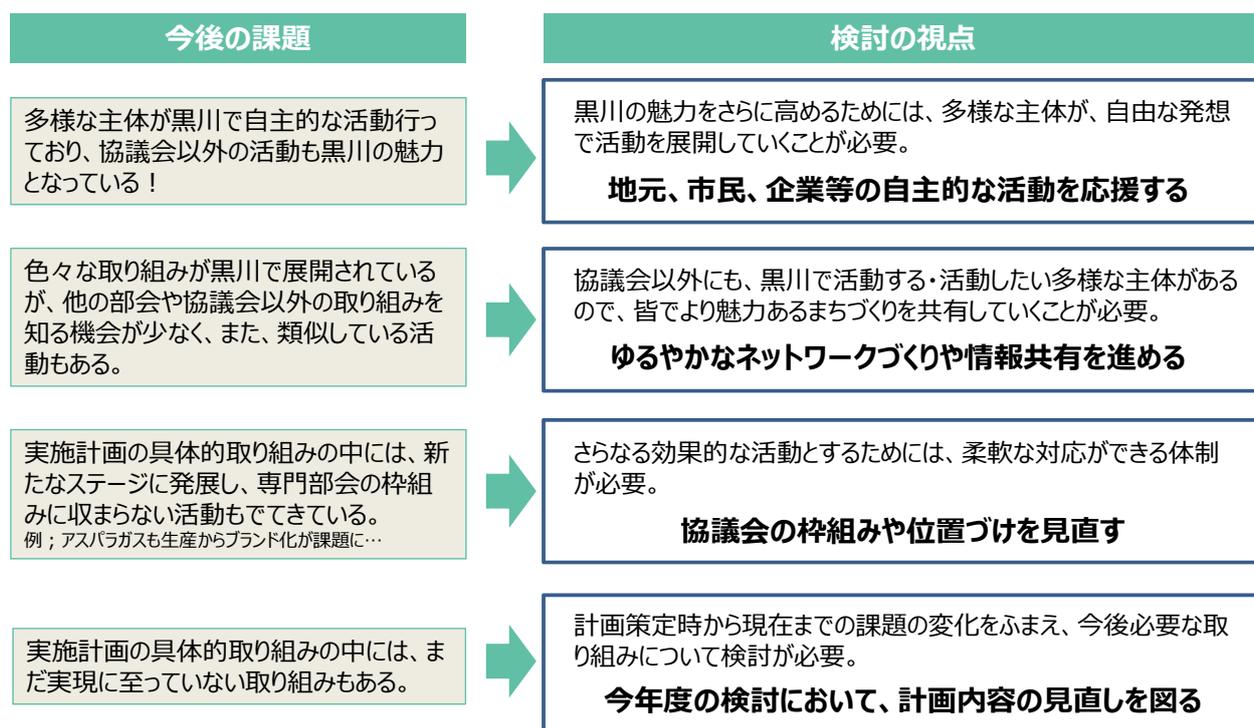
くろかわ森のようちえん「のあそびくらぶ」
年中・年長の未就学児を対象に週1～3回
程度開催する自然あそびプログラム

小学生を対象とした夏休みプログラム
はじめてのお泊り体験など

Ⅲ

今後の課題と検討の視点

今後の課題と検討の視点



IV

各専門部会の意見のまとめと 計画への反映について（案）

各専門部会における意見のまとめ<<成果>>

地元が中心となった
多様な取り組みの展開による
地域活性化

アスパラガスによる
黒川の農業活性化

協議会による大学と
地域連携の実現

来街者の
マナーの向上

多様な主体の
関わりの実現

意義のある
活動の実現



農産物等研究専門部会

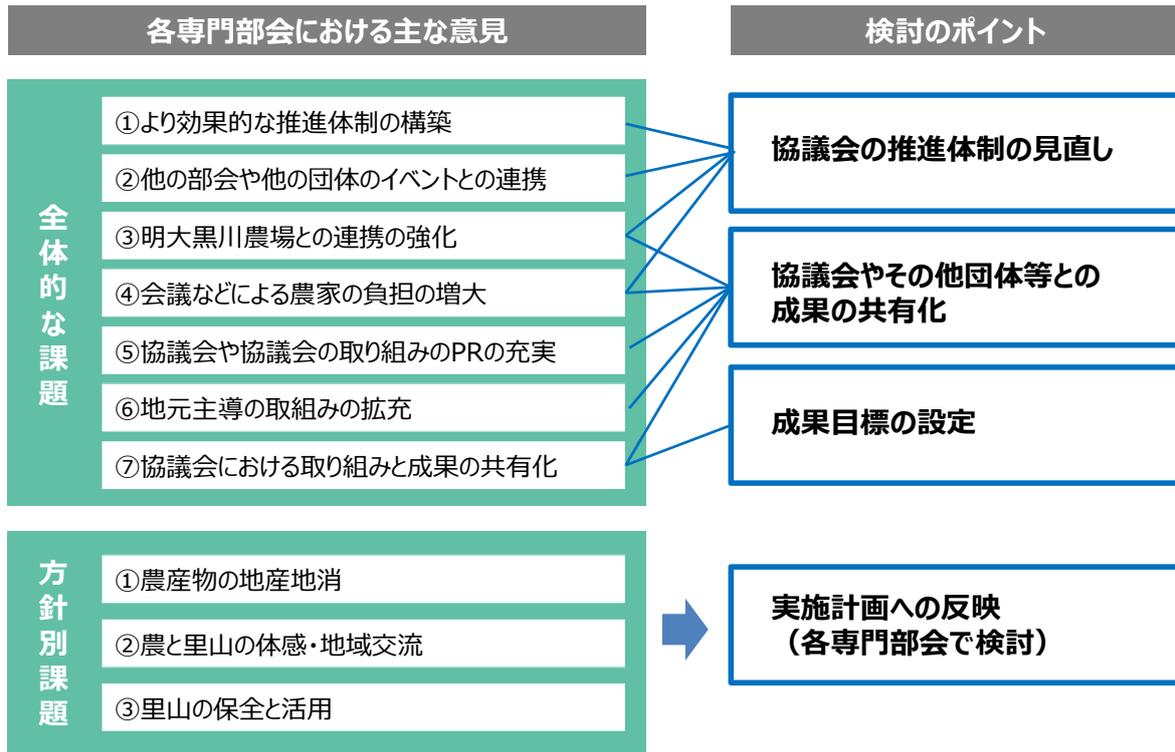


地域活性化検討部会



里地里山保全利活用専門部会

各専門部会における意見のまとめ「今後の課題」



現行の基本計画・実施計画

黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 概要説明書 H30.3

1/2

基本計画 (平成26年度作成)

1. 農と環境を活かしたまちづくりの目的

川崎市東生区黒川地域は、豊かな緑と農地が残された里山里山の豊かな地域です。しかしながら、良好な環境を持続的に維持保全していくためには、農・緑・地域等に關して様々な課題があります。そのため、本取り組みは、この地域が抱える課題を解決しながら活力ある地域としていくため、農業者・地域住民・大学・行政等が連携し、農と環境を活かしたまちづくりを進めることを目的としています。

2. 推進体制と目標、実施方針

多様な担い手となる「明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会」を中心に、3つの方向性を持った「専門部会（農産物等研究専門部会・地域活性化検討専門部会・里山保全活用専門部会）」を立上げ、各専門部会において様々な取り組みを話し、模範の上、継続的に実施していく取り組みを行います。

まちづくりの担い手

明治大学(大学生) 近隣大学 農業者 地域住民 プランテア 明治大学黒川農場 川崎市役所・南生区役所 市民

多様な担い手も関わりや連携により 取り組みを推進

支える組織

- 明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会
- 農産物等研究専門部会
- 地域活性化検討専門部会
- 里山保全活用専門部会

大目標

地域の農業資源・環境資源・人的資源を活用した地域の活性化・地域交流の推進
～持続的な里山環境の保全に向けて～

小目標

- 農産物等の地産地消
- 農と里山体感・地域交流
- 里山の保全と活用

実施方針

- 地元農産物の販売促進と加工品の開発
- 農や地域環境を体験するイベントの実施・PR
- 里山の保全や活用の推進

実施計画 (平成27年度作成) (平成28年度より本稿実施)

1. 実施計画と平成30年度の取り組み(予定)

基本計画の実施方針に基づき、平成30年度の取り組みについて、以下の事項を定めています。

実施方針	具体化の考え方	No.	取り組み項目	概要	H26	H27	H28	H29	H30
地元農産物の販売促進と加工品の開発	新規農産物や郷土農産物の販売促進	001	大学と農家の意見交換会	大学と地元農産物の相互の取組みに関する情報交換を行い、今後の黒川地域の野菜づくり等への連携につなげる。	○	○	○		
		002	アスパラガスの新たな栽培方法「保つゆり栽培」の実施	新規ホーラーを使用し、3月収穫。収穫と一緒に採りきる「保つゆり栽培」の展示法を考案し、協議会を開催する。	○	○	○		
		003	農産物に関する講習会	野菜と農産物に関する講習会、産地視察に役立つ講習会、大学と連携して開催する。	○	○	○		
農や地域環境を体験するイベント・PR	農と地域環境の体感・PR	004	地元農産物と農産加工品等に関する検討	地元農産物等と農産加工品等に関する検討	○	○	○		
		005	黒川地域に関するPR	黒川地域に関するPR	○	○	○		
		006	サイン・販路マップの検討・試行	販路等の適切な誘導、地域の紹介、マップアップなども含めたサインの検討・試行を行う。(里山保全活用専門部会と連携)	○	○	○		
農と地域環境の体感・PR	農と地域環境の体感・PR	007	黒川地域の認知促進	黒川地域の認知向上や来訪者を促進するため、緑地や農地に関する季節の単位を伝える「里山の農耕づくり」の検討を行う。	○	○	○		
		008	HP等による取り組み紹介イベントPR	農と環境のまちづくりの取り組みを積極的にPRするため、コンテンツやPR団体の共有を行う。	○	○	○		
		009	グリーンツーリズム	【野菜の収穫体験】市民の力を対等に野菜の収穫体験を実施し、採り分けから収穫・調理までを通して体験できるイベントにする。 【里山の環境体感】里山の環境体感や今後の活用に関するワークショップなどを行う。農産・大学・企業連携も積極的に行う。	○	○	○		
新たな魅力の発見・創造	農と里山の体感・活用を促進	010	<地域農産物の活用> 農の活用プロジェクト	農の活用から草履の活用を行い、草履を活用したスイーツづくり及び販売を実施。	○	○	○		
		011	里山アート制作と展示	【里山アート制作】黒川地域の農産物や環境を活かした里山アート展示を実施。アーティストによる作品展・里山アートをめぐりツアー	○	○	○		
		012	<里山の活用> 竹あんどんづくり	黒川地域の緑地の竹を活用し、地元小学生とともに、竹あんどんづくりを実施。将来的に地域の景観やイベント利用を想定。	○	○	○		
里山の保全管理や活用の推進	里山の保全管理	013	<里山の保全管理> 里山保全活動体験	里山での保全活動体験(観察や竹伐りなど)を行い、里山の保全活動の認知につなげるイベントを検討。	○	○	○		
		014	里山の保全管理	里山の保全管理	○	○	○		

2. 平成28年度以降の進め方

平成27年度に作成した「実施計画」に基づき実施してまいります。具体的な取り組みは、毎年の成果を踏まえ、毎年設定します。また、おおむね3年程度を目途に、必要に応じて基本計画の内容についても適宜修正します。

H26 H27 H28 H29 H30

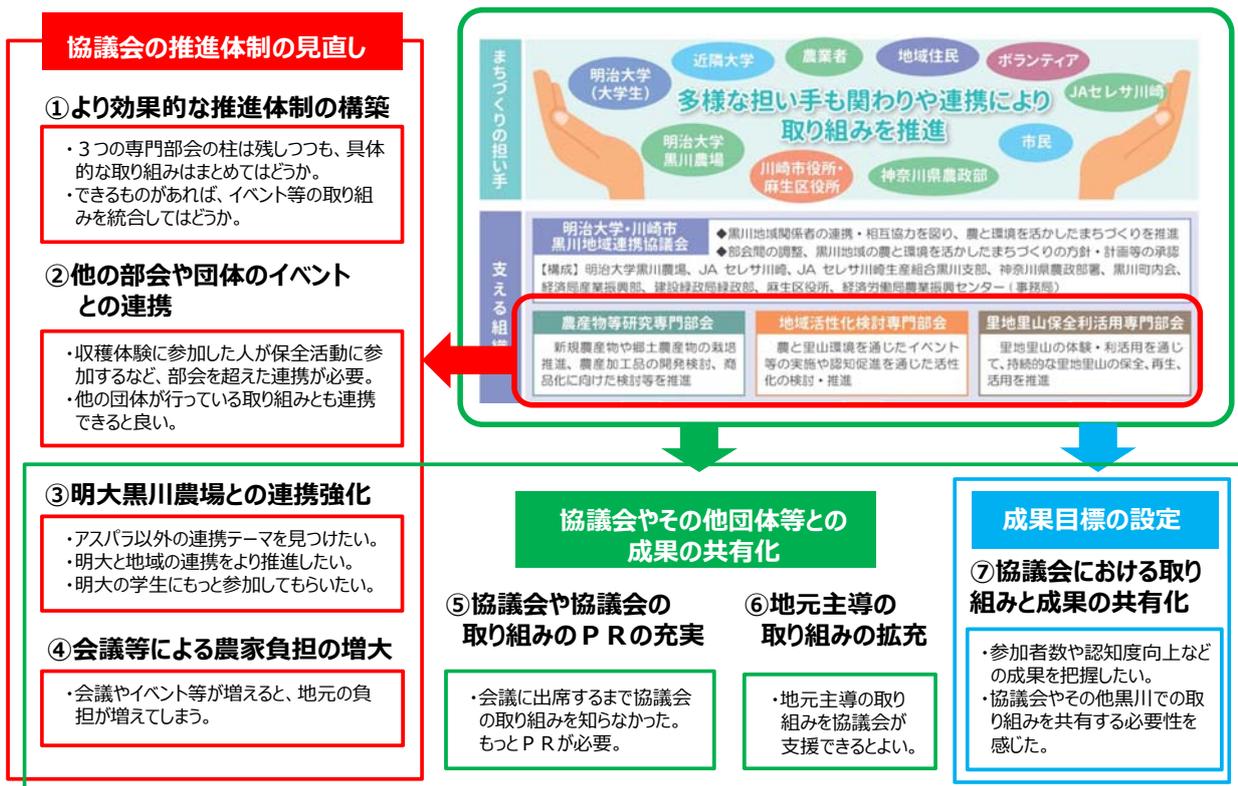
作成 基本計画の 作成 実施計画の 実施 実施計画に基づき取り組み 実施 実施計画に基づき取り組み 実施 実施計画に基づき取り組み 実施

計画に対する主な意見と見直しの方向性

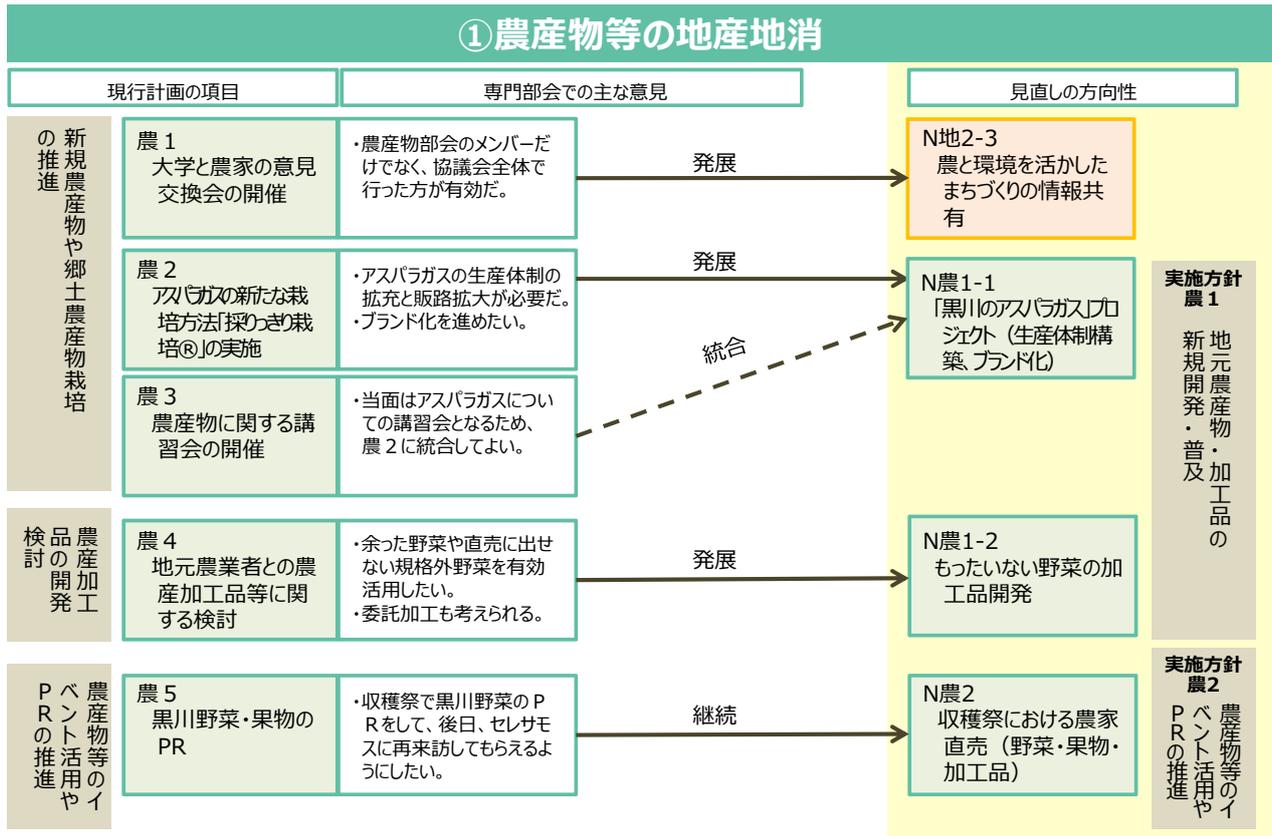


目標や、全体的な方向性に関する意見は特になかったため、目標や方針について、基本的には現行計画を踏襲する。

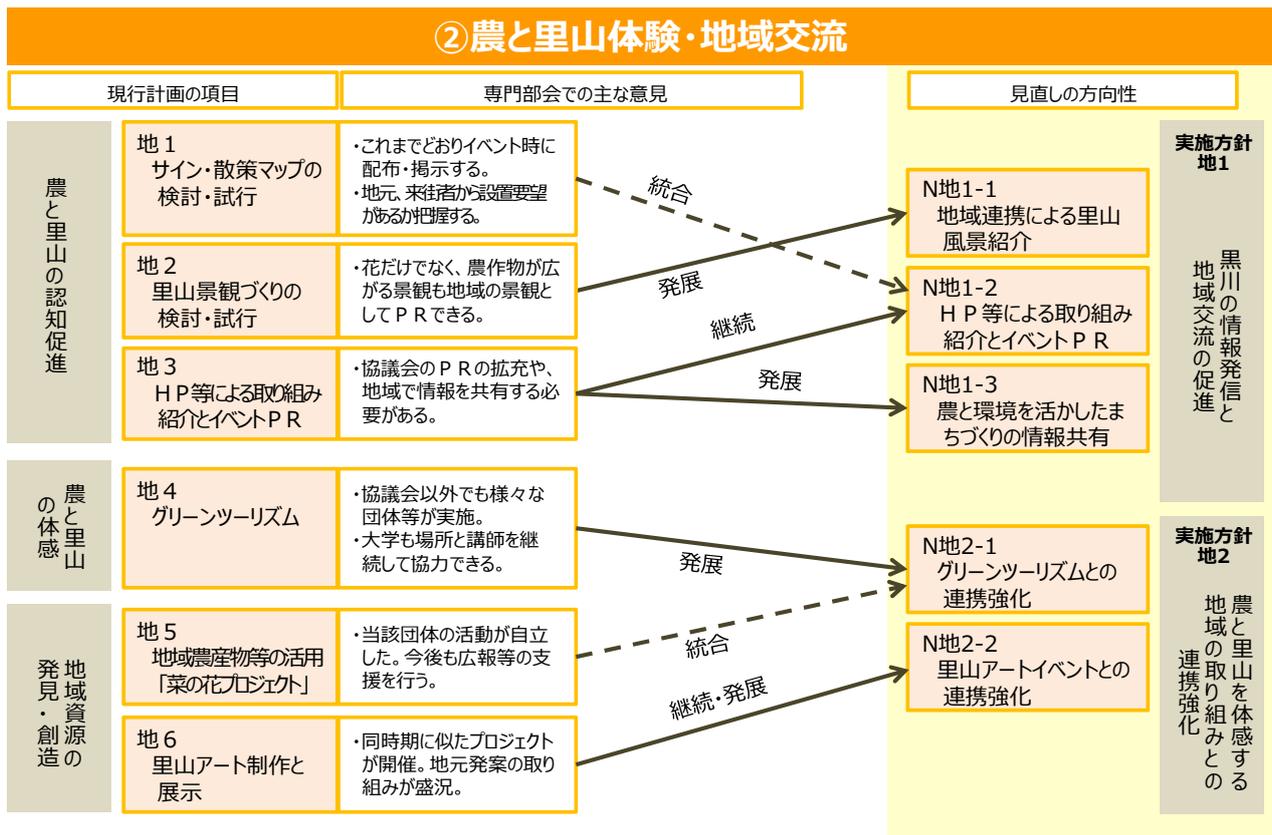
計画に対する主な意見と見直しの方向性



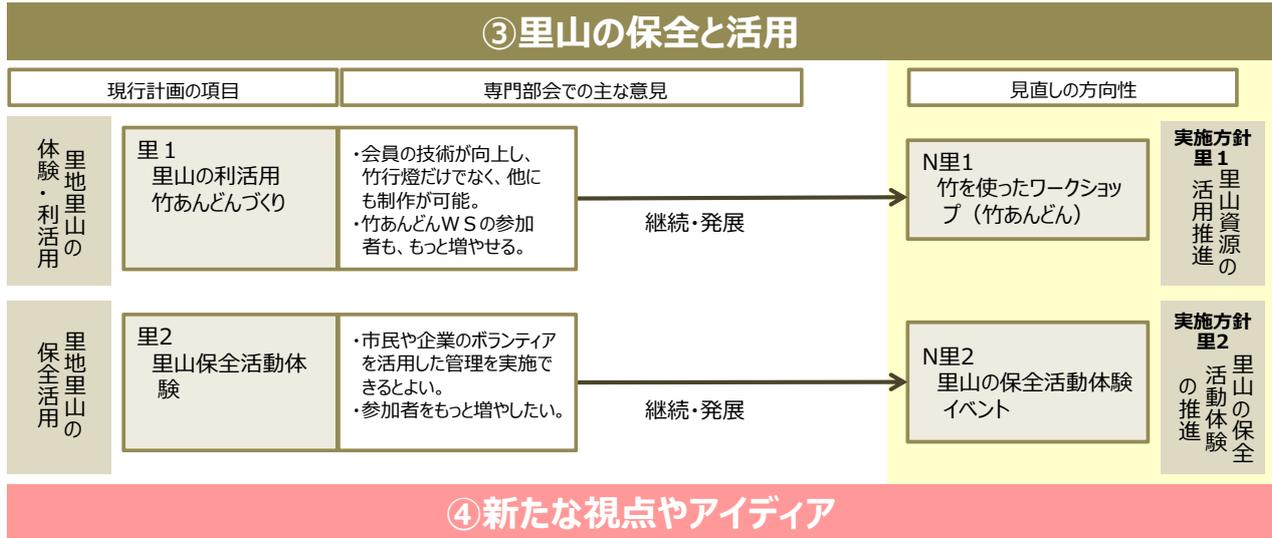
計画に対する主な意見と見直しの方向性



計画に対する主な意見と見直しの方向性



計画に対する主な意見と見直しの方向性



④ 新たな視点やアイデア

